

情勢報告（令和２年１１月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

ユリの生理障害対策 ～嶺北地域花きの品質向上～



ユリ「まだら症」（10月）

主幹品目のオリエンタル系ユリでは、連作による塩類集積から土壌 pH 値が変動し、スミ症やまだら症などの生理障害が発生しています。そこで JA と普及所では、土壌 pH 値を適正に保つよう、2 か月ごとに土壌分析を行い、施肥改善や緑肥栽培による有機物投入など土づくりを呼びかけています（10 月分析点数 73）。

生産者からは、「生理障害が出ると大きく品質を大きく落とすので、施肥改善や土づくりに取り組みたい」といった声が聞かれるようになり、土づくりに意欲的な農家が増えています。

普及所は、今後も土づくり等による花きの品質向上に取り組んでいきます。

高品質なユズの青果出荷に向けて！ ～ゆず部会で目慣らし会を開催～



真剣に出荷規格を確認する
部会員

10 月 23 日、JA 高知県れいほく園芸部ゆず部会は、大豊町の JA 集出荷場で、生産者、JA、普及所の計 20 人が参加して目慣らし会を開催し、出荷規格について実物を見ながら確認しました。

JA からは本年度の販売状況を、普及所からは生育概況を報告し、収穫前の貯蔵病害対策、収穫作業上の注意点について指導しました。

生産者からは「農家段階での一次選果を徹底して、品質の良いユズを出荷しよう」という力強い声が聞かれました。

今後も普及所は、新入部会員を中心に栽培技術が向上するように指導し、青果生産の拡大を推進していきます。

ミニトマト大豊町現地検討会 ～N ターン誘引実践に向けて～



N ターンに興味津々な生産者

10 月 28 日、大豊町でミニトマトの現地検討会を開催し、生産者 6 人が参加しました。

大豊町のミニトマト栽培では、労力不足から誘引や収穫作業が追いついていません。令和 2 年度では、2 人の生産者が収量増加、作業労力の軽減が見込まれる N ターン誘引を実施しました。

普及所は、N ターン誘引の収量、作業性を実証ほで調査したので、その結果を報告しました。

生産者からは「収量も多くなり、誘引作業が楽だったので、来年もやりたい」と前向きな意見が聞かれました。

今後も普及所は、ミニトマトの生産拡大に向け、生産者を支援していきます。

農福連携のノウハウは？ ～農福連携先進事例視察研修～



平坦、低樹高仕立てで収穫しやすいほ場です

普及所は、多様な労働力の確保として農福連携の推進に取り組んでいます。11月16～17日にはユズ農家のほ場と就労継続支援B型事業所（土佐町）で実施している、収穫と袋詰め作業について

円滑に実施するポイントを確認しました。

生産農家は、B型作業所に委託する作業内容を精査し、利用者の働きやすさを第一に考えて、明確に伝えていることから、迷いなく作業ができていることがわかりました。

普及所は、優良な先進事例を蓄積し、嶺北地域の農福連携の定着に取り組めます。

カイゼンマイスターとの意見交換会

～オリエンタル系ユリの出荷調整作業標準書の改良に向けて～



カイゼンマイスターと意見交換する普及指導員ら

当普及所職員3名は11月17日、農業技術センター会議室でカイゼンマイスター、経営担当専門技術員らとオリエンタル系ユリの「ひらがな版出荷調整作業標準書(案)」を検討しました。管内では昨年度からユリ農家1戸を対象に、トヨタ式カイゼン手法を用いて農作業の効率化に取り組んでいます。当農家は外国人技能実習生の受入れを予定しており、分かりやすい作業標準書の作成を目指しています。

カイゼンマイスターからは「文章は写真の中に記入すると分かりやすい」「農業用語は簡単なベトナム語辞書を別途つけたら」といった助言がありました。

普及所は助言を活かして、分かりやすい作業標準書を農家へ提案する予定です。

松木野営農組合のサトイモ収穫 ～新たな収益作物の検討～



よく生育したサトイモを収穫する組合員

土佐町の松木野営農組合は、地域の農地を守る取組として、耕作放棄地でサツマイモやイタドリを栽培しています。今年からサツマイモに不適な農地には、サトイモを栽培し、11月18日には組合員3名が油圧ショベルを用いて約300株を収穫しました。普及所は収益性を評価するための収量調査を行いました。サトイモはJAを通じて県内のスーパーに出荷されます。

普及所は、今後も集落営農組織の収益が上がる作物について支援していきます。